

サロン

らしくサロンとは、毎回テーマを設け、ボランティア・市民活動、生涯学習に取り組む人たちを中心に繰り広げられる座談会です。

テーマ「プラザ・フリースペース発！ここはみんなの市民交流拠点」

とき／平成15年(2003年)12月4日(木)

ところ／まちづくり市民交流プラザ 3階フリースペース

ゲスト／ピースボート(広島) 塩出香織さん

グリーンコンシューマーひろしま 鈴木欽七さん

男女共同参画推進員の会 田熊信子さん

フリースペース担当／まちづくり市民交流プラザ 山本富士江

生涯学習、市民活動を応援する場所として、いつも活気にあふれている、まちづくり市民交流プラザの「フリースペース」。予約なしに気軽に利用できる街中の空間は、活動グループのミーティングやワーキングだけでなく、自分たちの活動の情報発信や団体同士の交流へと、広がりを見せています。

今回のサロンでは、いつもフリースペースを利用している団体の皆さんから、このスペースの運営面での提案やヒントが次々と出されました。

■フリースペースの利用を始めたきっかけは？

——日頃どのような活動をされているのか、このフリースペースをいつ頃から、どんなきっかけで利用するようになったのか、教えてください。

塩出 昭和58年(1983年)に設立されたNGO団体「ピースボート」は、みんなが主役で船を出すを合言葉に、好奇心と行動力いっぱい若い若者たちを中心に、地球の各地を訪れる国際交流の船旅を企画しています。各寄港地のNGOや学生たちと交流しながら、

ら、草の根のつながりをつくることを目指しています。本部は東京ですが、最近広島でも有志が集まって活動を始めました。プラザはいつでも来てすぐにミーティングできるというのがいいですね。夜10時まで開いているのも助かります。週に二度は集まっていますね。

鈴木 「グリーンコンシューマー」は、簡単に言うと、環境にやさしい買い物をしようということなんです。それに加えて、人の健康も考えています。平成11年(1999年)、広島市の環境サポーター養成講座の受講生6人ほどで立ち上げ、その後さまざまな地域のガイドブックを取り寄せ、みんなで勉強しました。平成13年(2001年)には、広島市周辺のスーパー154店を調査した広島版ガイドブックを発行しました。ほかにも各地区でゴミを拾うなど、身近な取り組みも進めています。プラザは、オープンした直後から、いつも例会で利用しています。

田熊 「男女共同参画推進員の会」というのは、平成

街中だから近くのいろんな場所に行けて刺激的ですね(笑)。

田熊 ミーティングはいつも大勢でするわけではないです。よね。ほかの施設だと、少人数でも部屋を予約しなければいけない。その点、ここは大いに助かっています。

塩出 パソコンも印刷機も、辞書もあるので、資料がすぐ作れます。

山本 ほかに、ロッカーやメールボックスの貸出し、イベント等を告知するための掲示板やパンフレットスタンドなども設置して、皆さんの活動を支援しています。

田熊 その日に話し合ったことを電子ボードに書けば、すぐ資料にできるのも便利です。

■コミュニケーションを大切に

——プラザスタッフとのコミュニケーションはいかがですか？

鈴木 ボランティア総合支援センター(プラザの前身)時代は事務室と同じフロアだったのが、今は離れているからスタッフの顔が見えない。あいさつからコミュニケーションが始まるので、同じフロアというのは大事です。会ったら必ず、「こんにちは」と言われる人もいます。利用者同士でも、それは大切ですね。

田熊 プラザスタッフとのふれあいは大事です。何かあるとすぐ相談できるし。

山本 私たちも努力しないといけないですね。積極的にフリースペースに向いて、情報交換することは大事なことです。



たくさんの人でにぎわうフリースペース



■キーワードはフレキシビリティ

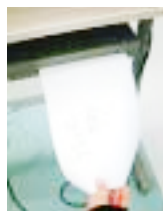
——プラザの良さは、「フレキシビリティ」というキーワードにあるそうですね。

鈴木 比較的人が多い水曜日に利用しているんですが、皆さん譲り合って使っているの、いっばいで利用できるなかったということはないですね。

塩出 フリースペースは2フロアあるから、席の確保で困ったことはないです。ミーティングが終わった後でも、



さまざまな市民グループの活動情報が並ぶ掲示板



ボードに書き込んだことが、すぐ紙にプリントアウトできちゃう電子ボード。会議の議事録代わりになります

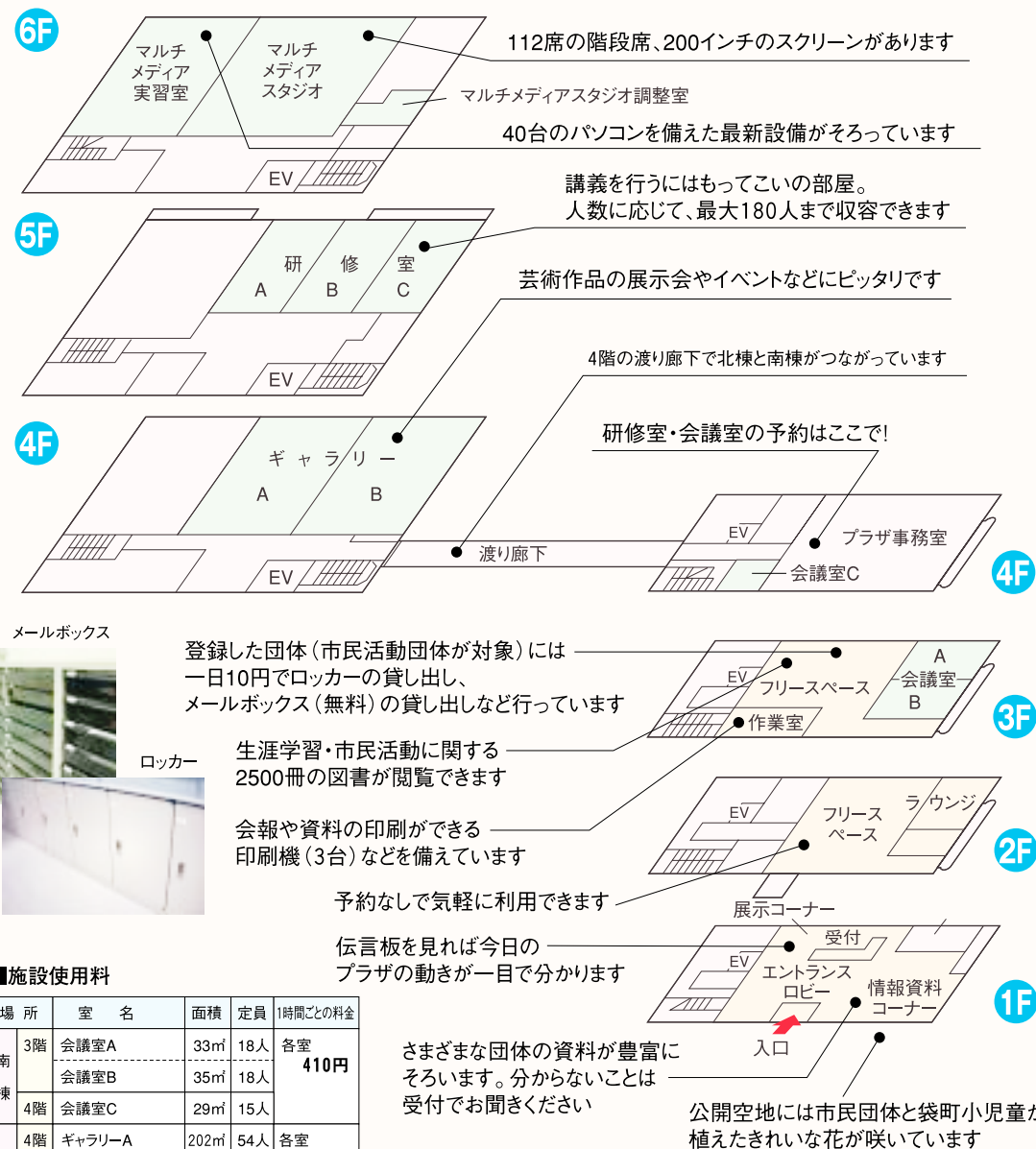


おそろいのユニフォームを着て活動中



鈴木欽七さん
グリーンコンシューマーひろしま

まちづくり市民交流プラザは生涯学習・市民活動の強い味方。
 便利な最新設備がそろい、親切なスタッフが応援します。
 どんどん利用してね！



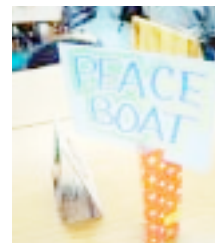
■施設使用料

場 所	室 名	面積	定員	1時間ごとの料金
南棟	3階 会議室A	33㎡	18人	各室 410円
	会議室B	35㎡	18人	
	4階 会議室C	29㎡	15人	
北棟	4階 ギャラリーA	202㎡	54人	各室 2,430円
	ギャラリーB	202㎡	54人	
	5階 研修室A	97㎡	60人	各室 1,160円
	研修室B	91㎡	60人	
	研修室C	94㎡	60人	
	6階 マルチメディアスタジオ	232㎡	112人	2,790円
	マルチメディアスタジオ調整室	43㎡	-	520円
	マルチメディア実習室	183㎡	40人	2,190円

※ご利用にあたっては予め使用申請が必要です。予約は3カ月前（ギャラリーを展示の目的に使用する場合は6カ月前）から受付を開始します。
 ※ギャラリーを展示に利用する場合は、1日あたり15,120円です。
 ※商業活動の場合には、料金が1.5倍になります。

予約が必要（有料）
 予約なしで使えるスペース

広島市まちづくり市民交流プラザ
 〒730-0036 広島市中区袋町6-36
 TEL 082-545-3911（代表）
 TEL 082-545-3913（施設予約受付専用）
 FAX 082-545-3838
 URL <http://www.hitomachi.city.hiroshima.jp/m-plaza/>
 E-mail m-plaza@hitomachi.city.hiroshima.jp
 開館時間／午前9時半～午後10時
 休館日／火曜日、祝日法に規定する休日
 （火曜日の場合は直後の休日でない日）、
 12月29日～1月3日。ただし、8月6日は開館



手づくりのネームプレートで声を掛けるきっかけも増えます



山本富士江
 まちづくり市民交流プラザ

■フリースペースをもっと楽しむ

「ここを利用している団体はどのくらいあるんですか？」
 山本 月平均で、2階が約60団体、3階が70団体くらいです。同じスペースを利用しているのどんな団体か分からない、情報交換をしたい、という声が出てきたので、平成15年6月に、初めてフリースペースネットワーク交流会を開きました。7グループ12人が集まりました。「お互いの活動内容を知るため、情報誌を作つてはどうか」「定期的にサロン形式で集まり、活動報告などもできれば利用者層も膨らみそう」など、創造的な意見も出ました。
 鈴木 自分も出ましたが、より多くの団体に参加してもらうには、2日くらい連続してやるか、昼と

「ほかのグループとコミュニケーションを取られることなどはありませんか？」
 塩出 目が合えばあいさつすることはありますが……。相手がどんな活動をされているのか、気になりますよね。
 山本 利用者の提案で、今どんな団体が利用されているか分かるように、グループ名を書いた手づくりのネームプレートを机の上に置いてもらうようになっています。
 田熊 コミュニケーションを取る時、グループ名が表示されているといいですね。
 鈴木 年に一度くらい、自分たちの活動をPRしたりする交流会を開いてはどうでしょう。そうすれば、もつと団体間の連携が促進されるかもしれないですね。

夜に分けて集まりやすい方に参加してもらおうのも一つの方法ですね。
 山本 できればいいですね。交流会を開いて、こういう情報誌ができて、それを基にまたサロンや情報交換の場が生まれて、じゃあみんなで何かやってみようと気運が盛り上がりつつ！ そういえば、交流会も最初はたった3人の方が呼び掛けて始まったんですね。
 田熊 メッセージボードなどに、「今日はこんなことがありました」とか気楽に書けるスペースもあってもいいですね。
 鈴木 ほかの団体に対して、聞きたいことを質問できるようなボックスがあれば面白い。そういうのも一つの工夫ですね。
 多彩な市民活動の情報が集まるフリースペース。周りを見渡してみると、自分たちの活動に生かせるヒントがたくさんあるのではないのでしょうか。ココが気軽に情報交換できる市民交流の発信源となつて、広島のみちづくりにつながっていくべき素敵ですね。



男女共同参画推進員はグループの会合や団体の研修会などで指導もします

田熊信子さん
 男女共同参画推進員の会

フリースペース利用グループによる情報誌づくりが進んでいます。団体同士のコミュニケーションに一役買えばと期待が膨らみます



サロン



左が河野やよいさん。受講者の要望があれば、これから月1度以上活動したいそうです

ITちょこボラ パソコン指導

気軽にやるほうが長続きする

同じ志で集まったメンバーたち
平成14年(2002年)12月から翌年4月まで、広島市が行った地域ITリーダー研修会。この修了生の中の8人が、習得したノウハウを生かそうと結成したのが、「ITちょこボラ」。平成15年(2003年)8月にボランティア人材バンクへ登録、毎月1回のホームページ作成講座を開催するなど、積極的な活動を展開中です。
昨年度までのIT講習会のサポートボランティア活動をしていたメンバーもいて、そこで培った指導ノウハウを生かすなど、パソコンについて全くの初心者から、ちよっとレベルアップをしたい人まで、その人の力量に合わせて分かりやすい指導

導を心掛けています。質問や相談などにも気軽に応じ、和やかな雰囲気です。



和気あいあいと話せるのがちょこボラのいいところ

たちが、ちょこボラメンバーとなったのです。

「ITを本当に使ってほしい人は誰？」
代表者の河野やよいさんは、大型コンピュータやDOSVだった時代から、IT関連の仕事に携わってきました。プライベートでも、自宅近くの観音公民館などで、ボランティアとしての講師を担当。そんな活動を続けていく中で、「自分の得意なこのIT技術を、ほかの人にも分けてあげたい。講座を受けるゆとりがない人にこそ、ITで貢献したい」と思うようになりました。
現在は、まちづくり市民交流プラザのマルチメディア実習室を使って講義を行っています。実は本腰を入れたのが、再就職支援や個人宅を訪れる訪問指導。体が不自由な人や、介護をして時間が自由にならない人などがITの知識と手段を得れば、もっと手軽で快適な情報収集ができるのではないか——この意見に賛同した人

Information
ITちょこボラ TEL082-291-3237(河野)
E-mail itchokobora@yahoo.co.jp
1/19(月)にパソコン勉強会開催。
市民交流プラザ・北棟6階マルチメディア実習室にて

ヘタでいい、ヘタがいい

自分の感動を伝えたい人に贈る
絵手紙は、下書きなしで感動したものを墨と絵の具を使って、絵と文字で表現するシンプルなもの。線をゆつくりと描く、ハガキからはみ出すように大きく表現する、そしてなるべく手早く色づけすることを基本に、贈る相手に素直な気持ちを表現します。最後に消しゴムを彫って簡単に作った落款を押すだけで、世界でただ一つの真心のこもった最高の贈り物の出来上がり。素朴だけれど、その枚で愛が広がりと心の深みが増す、そんな魅力を絵手紙は持っています。
今回は、この絵手紙を通じて心

の触れ合いを大切にしているボランティア、油谷育美さんをご紹介します。

絵手紙に癒される

七年前、仲の良かった妹さんをごんで亡くされた油谷さん。悲しさでいっぱいだった頃、公民館で絵手紙の講座に出会いました。「自分の気持ちを吐き出せる絵手紙、そしてその場で出会う温かい人たちのお陰で、少しずつ癒されていきました」とのこと。もともとと描くことが好きだった油谷さんは、より絵手紙の本質を学びたくなり、平成11年(1999年)に東京の講師養成講座へ



愛の妹さんへ
思いついた
絵手紙

そのままだがあなたが素敵

絵手紙の最大の魅力は、「ヘタでいい、ヘタがいい」というところ。それは、絵が下手、文章が苦手といったことは関係なく、自らのありのままを表現すればいいということなのです。時間とお金をかけて贈る絵手紙は、どんなものもその人なり

の心が込められた、「あじ」がある作品となります。親からもらったものを大切にしたい、命の尊さを伝えたい、そんな思いが油谷さんの活動の原点になっています。
「ボランティア活動は、時間とお金に余裕がある人がするものとの声を聞きますが、そうではなくて、できる範囲でできることを続けていくことに意義がある」と油谷さん。絵手紙の描き方を指導する活動は、行くはずのなかった所に足を踏み入れたら、新たな出会った人々との触れ合いが生まれ、感動をもたったり、お金では買えないとき、を生む、それが油谷さんの最大の喜

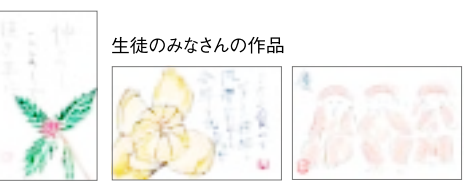
びなのだそう。

心の足跡を形に

現在、4人の子育ての合間を縫って、福祉センターや小学校などで絵手紙の指導をしている油谷さん。平成14年(2002年)5月、油谷さんはこれまで妹さんへの思いをつづった作品を、思い出の品とともに展示する「七回忌展―妹よ―」を開催しました。妹さんの思い出と重なる、お世話になった訪問看護師さんや絵手紙の先生たちが同じ日同じ時間にたまたま訪れるという偶然の出来事もあり、「妹が今もそばにいてくれる」と実感したそうです。その瞬間、油谷さんは何かふさされるものがあつたそう。



妹さんが好きだった花や作品200点近くを展示。会場には約300人が訪れました



生徒のみなさんの作品



絵手紙の指導
あぶらたに いくみ
油谷 育美さん
年賀状づくりに挑戦

油谷さんからすてきなプレゼントがあるヨ！詳しくは26ページを見てね！



レポート 第2回 未病フォーラム広島

平成15年(2003年)11月1日、まちづくり市民交流プラザで行われたのが、「第2回未病フォーラム広島」。日本未病システム学会は9年の歴史を持っています。広島での未病フォーラムは、昨年初めて行われました。未病フォーラム広島の代表者は、広島大学原爆放射能医学研究所細胞再生研究分野の渡邊敦光教授。博慈会老人病研究所の福生吉裕所長による「未病とは」の講演では、未病とは「病気になる前に健康に気をつけられ、病院に行かなくてもよく、お金もかからない」という考え方で、病気になるためのアド

バイスがありました。また、広島大学医歯薬学総合研究科心臓血管生理医学の吉栖正生教授による「心臓を守る」の講演では、生活習慣の改善が呼び掛けられました。フォーラムは、年1回開催される予定です。



イベント情報

◆プラザリカレント講座予告

大学の持つ教育・研究機能を市民生活に生かすため、社会人のための講座を2月から新規に実施します。講座名・内容は、コンピュータ、言語学、歴史などの専門分野から3講座を計画中で、1月中旬に発表、募集開始しますのでぜひご参加ください。

◆エルネットオープンカレッジDVD視聴できます

プラザでは、衛星放送による全国の大学公開講座を受信し、1階エルネットコーナーで館内放送しています。今年度受信番組のDVD約140番組も視聴できます。ぜひご利用ください。

【今後の放送予定】●岩手大学「啄木の魅力、賢治の魅力:望月善次教授ほか」1/10・17・24 土曜13:00~15:00 ●佛教大学「京都の暮らしとまち:谷口浩司教授ほか」2/5・12・19・26 木曜10:00~11:50 ほか平日午前と土曜午後

【録画DVD】●静岡大学「やきもの考古学:柴垣勇夫教授」2枚組各1時間50分 ●淑徳大学「源氏物語への誘い:宮川葉子教授」3枚組各1時間50分程度 ●立命館大学「心と行動のゆれとゆがみ:松田隆夫教授他」4枚組各1時間50分程度ほか多数、放送時間以外の開館時間(夜10時まで)に再生視聴できます。いずれも、無料。各回10枚程度のテキストはコピー可(有料)。詳しい内容は、1階カウンターでご案内します。

インテンシブ英語学習プログラム サポーター 平野 由美恵さん

自分に、進度も時間も合わせた英語学習ができる便利なプログラム、それが広島市立大学のインテンシブです。青木信之教授をはじめとする国際学部英語教育スタッフが生み出し、平成14年度から市立大の学生だけでなく、市民交流プラザにて一般の方も受講できるようになりました。

プラザができたばかりの頃、ちょうど広島に引っ越してきたという平野さん。館内チラシなどで知ったインテンシブにさっそく申し込み、15年度の第1回目に受講できることになりました。プログラムは、2カ月の間に一人でパソコンに向かってこなしていくため、自分が納得のいく進め方ができ、受講料も1万円と手頃です。また、社会人いれば学生もいるという受講生の年代はバラバラで、そこも魅力のひとつでしょう。

「出会えたことが本当に幸運! 今年一番の収穫です」と平野さん。もともと国際交流に興味があり、これまで出かけた旅行先で友達になった人を日本まで招いたこともある、積極人間。「いつかはきちんと英語を習いたいと常々思っていました」。夫も退職し、広島へ戻ってきてちょっと余裕が出てきた毎日の中、インテンシブは平野さんに思わぬ刺激を与えたようです。

学習態度の熱心さから「サポーター」にも選ばれ、続けて第2回のインテンシブにも参加。「次の海外旅行の計画もしっかり立てました。また、将来も再度インテンシブに参加したいと思っている今日このごろです」。



芸術学部は展示で生涯学習を進める!

11月29日から12月7日まで開催された「前進する工芸展」はご覧になりましたか? 金属、ガラス、木、漆、布、和紙からなる大小さまざまな工芸が多数展示され、まちづくり市民交流プラザのギャラリーは多くの市民と来広者でにぎわいました。全国の主要芸術系大学で工芸美術教育に携わる作家45人が、広島市立大学芸術学部、潮隆夫教授の呼び掛けに応じて出品した、大規模な工芸展。このように多数の代表的作家作品を一度に見ることができるのは、実はとても貴重な機会だったのです。「広島の情報発信につながればと思い、全国の大学に呼び掛けたものの、これほどたくさん出展していただけたとは思わなかった」と潮教授も驚いたそうです。サブタイトルは「美術系工芸教育における大学間研究ネットワークの構築」、パネルディスカッションやギャラリートークもあり、現代工芸と大学教育への認識を新たにしました。

「作品を見てもらうことで、芸術系大学がどんなことをしているかを知ってもらおう」という大学の取り組み。街を楽しくするだけでなく、学が楽しみを気づかせてくれるかもしれません。1月14日(水)~16日(金)の3日間、同じギャラリーで、デザイン工芸学科学生作品展示と公開作品講評が予定されています。時間は午前10時から午後5時。ぜひ、ご来場ください。



広島市立大学
Hiroshima
city
university
の講座で学ぼう



旅行先で友だちになった人とは
今もメールのやりとりをしています
(中央が平野さん)

広い視野から足もとを見つめなおそう

現在は「グローバルゼーション」の時代。わたしたちが毎日食べている果物も、使っている家具の原材料も、どこか遠くの国々から来ていますし、これらを食べ、使うことで、わたしたちはそこに住む人々と関係を結んでしまう。ふだんは意識しにくいことですが、これが時代の現実なのです。そんなグローバル化の時代、先

いて、国際文化、国際政治、国際経済の3分野の講師陣が、それぞれ独自の視点から講義する、というもの。



講座企画を担当した湯浅正恵助教授(左)と柿木伸之講師(右)

が見えない」ともすれば言われていきます。そんなとき、状況への見通しを開くには、もしかしたら一度自分の足もとを、今までは別の、もっと広い視野から見つめなおす必要があるのかもしれない。それを通じて、わたしたちが今生きている社会は持続しうるのか? 持続する社会を築くためにわたしたちの手で変えられるものは何だろうか? これを受講者とともに考えていきたいと思っています。

湯浅助教授と柿木講師は、このように講座への抱負を語ってくれました。

市民との対話へ向けて
今回の講座で重視されるのは、受講者との「対話」。「一方的に教える講座ではなく、逆に受講者からも教えられたい、受講者の率直で新鮮な意見も聞けたりするような、「対話」のある講座にしたいそうです。

また、受講者が一つのテーマについての考えをさまざまな角度から掘り下げていけるよう、全8回すべての受講を前提とする連続講座が組まれています。連続講座ということで申し込み人は少ないのでは、といった心配はどへやら、予想を大幅に上回る申し込みがあり、予定より早く定員の100名に到達。「こういった機会を求めている人が思ったより多いのに驚きました」とは、湯浅助教授と柿木講師の言葉です。「持続可能な社会」、「グローバルゼーション」、「平和」といったキーワードのもとで行われる全8回の講座の中で、市民と大学がどのようなものを産み出していくのか、楽しみです。

「H」……それは「英知」すぐれた知恵であり、「叡智」深遠な道理をさとる優れた才知でもある。生涯学習のある暮らし、そんな広島の「H(えいち)」をお届けするコーナー。

Eイチ・キャンパス

Campus

広島市立大学国際学部 公開講座

持続可能な社会を築くために——21世紀の戦争から持続する平和へ——

たんなる公開講座じゃない!? 一つのテーマを さまざまな視点から

1月14日から3月10日の毎週水曜夜(2月11日を除く)、まちづくり市民交流プラザのマルチメディアスタジオにて開催される広島市立大学国際学部による公開講座(全8回、受講無料)。「持続可能な社会を築くために——21世紀の戦争から持続する平和へ」という一つの軸になるテーマについて、国際文化、国際政治、国際経済の3分野の講師陣が、それぞれ独自の視点から講義する、というもの。

市立大学は、まちづくり市民交流プラザと共同で生涯学習の場の提供に全学的に取り組んでいます。

Hiroshima city university
広島市立大学
広島市安佐南区大塚西3-4-1
TEL082-830-1500(代表)
<http://www.hiroshima-cu.ac.jp/japanese/>